令和3年度学校関係者評価委員会における委員の意見及び本校の認識・対応方針

評価項目	委員の意見	本校の認識・対応方針
1 教育理念・目的・育人人材像	<p>【神谷委員】</p> <p>資料1にある基本理念と学則第1条の目的及び使命と文言が異なっている。整合性を問われるので、一字一句合わせておいた方がよいので、今後検討いただきたい。</p>	<p>学則の総則は条例と同じにしてある。今後は、意見に基づき、検討する。</p>
	<p>【内山委員】</p> <p>(3)の学校の将来構想を抱いているかの項目について、適切に描かれていると判断できるので評価値は「4」でいいのではないかと。</p> <p>【加藤委員】</p> <p>しっかり目的が掲げられているので、(3)については評価値4でよいと思う。</p>	<p>(3)は評価値4とする意見が多数のため、総合評価を修正する。</p>
2 学校運営	<p>【神谷委員】</p> <p>運営計画の基本目標の人材育成部門において、岐阜県の地域経済に貢献する人材育成を目指していただきたい。県外への就職が多いのはやむを得ないが、今後は岐阜県の地域経済の発展を守るという意味で、県内への就職を目指すという点を入れ込むとよい。</p>	<p>県内、県外の関係は入学から卒業まで、必ず話題になるため、十分認識している。引き続き努力する。</p>
3 教育活動	<p>【内山委員】</p> <p>(6)は学校の設備の充実度、企業などと連携したインターンシップの実施状況から判断して評価値4でよい。(13)は専門分野のみならず教員としての研修も怠っていない姿勢が十分みられると思うので評価値は4でよい。(14)はコロナにより職員向けの研修が受講できなかったことが理由での評価値であるならば、取り組む体制は整っていることを考慮し、評価値は少なくとも3であり、2であるべきではない。</p>	<p>今後も職場体験を通じた実践的な教育と教職員の研修受講による能力開発に努める。学校としては辛めにつけた評価値であるが、自己評価のとおり評価でよいか尋ねたところ、多くの委員が賛成したため、評価値は自己評価のままとする。。</p>
	<p>【神谷委員】 神谷委員：(3)カリキュラムについて、資料2-2の6ページにある3つのポリシーが教育課程のどこに関連づけられているかが見えてこない。今後は教育課程の中に3つのポリシーがどう関連づけられているか説明していくことが必要である。できれば学則または履修規則のなかに入れていけるとよい。</p>	<p>専修学校では3つのポリシーは義務付けられていないが、必要性を認識し、文章化したところである。今後、教育課程の中にどう位置付けていくべきかについて検討する。</p>

評価項目	委員の意見	本校の認識・対応方針
4 学修成果	<p>【神谷委員】 資料2-2の9ページに教務委員会、総務委員会の業務分掌があるが、他の委員会についても業務分掌があるのか。</p>	<p>委員会ごとに設置規程があり、所掌事務は規定されている。</p>
	<p>【和賀登委員】 (4)について、実際に卒業生からどのような意見をいただいているのか教えていただきたい。就職した生徒の感想や課題、問題点の把握など、受け入れる企業としても参考になることがある。今後のカリキュラム編成の参考になるのではないかな。</p>	<p>毎年卒業して1年目、3年目となる卒業生に郵送によるアンケートを行っている。回答は分析することにより教員も学修の足りない部分に気づく。アンケートの回収率が低いのが課題であり、回答率を上げる工夫が必要とのことで、自己評価では少し低めとなっている。今後も卒業生からの意見を整理し、今後のカリキュラム編成に活かしていく。</p>
	<p>【和賀登委員】 ここ数年、卒業生に入学いただいているが、即戦力で助かっている。非常に優秀な学生が多い認識を持っている。企業サイド、例えば店長とかに直接アンケートをしたらよいのではないかな。個人評価ではなく、学生に何を望むかななどを聞くとよいし、協力できると思う。</p>	<p>教員だけでなく、就職先である企業へもお知らせできるものはお知らせさせていただくと、よりよい循環で回る。また、企業へのアンケートの実施についても取り組む。</p>
	<p>【加藤委員】 先日長良園芸に行ったところ、店員に声をかけられた。その店員はアカデミーの卒業生であったが、笑顔で声をかけられ、大変うれしかった。接客をしている様子を見ていたが、入社したばかりでも、笑顔でうまく接客していて、きちんと教育ができていると感心した。</p>	<p>引き続き、現場に直結した教育を実践し、「社会性、職業意識を身につけた即戦力」となる人材育成に努める。</p>
	<p>【神谷委員】 この項目は学校として一番重要な項目である。資料2-2の20ページ、21ページがエビデンスになっていると思う。成績評価もしっかり行っているし、シラバスにも評価方法を載せているのに、それが学修成果の項目に挙げていない。単位修得率や成績評価(GPA)において平均以下の学生をどう指導しているか。教育アウトプットが見える化するとよい。学生も勉強方法がわかるし、外部の方も取り組みがわかる。単位修得率や成績評価をエビデンスとしてそろえた方がよい。</p>	<p>今年度よりシラバスに評価方法を記入することとし、学生がどのように評価されるのかわかるようにした。GPAについてもすでに取り組んでいるので、その辺りのエビデンスを積み重ねていく必要がある。資料の中に出していけるよう取り組む。</p>

評価項目	委員の意見	本校の認識・対応方針
4 学修成果	<p>【谷 委員】 (4) について、大変丁寧にされており、評価値はもう少し上げてもいい。 (3) についてもカウンセリングなど丁寧にされている。高校でも昨年度はコロナ禍で普通どおりの学校生活が送れない中で悩む生徒もたくさんいた。そうした中でこうした対応を細かくされ、1名の退学者は残念であるが、よくやっていただいていると感じる。</p> <p>【内山委員】 (4) は卒業生が自発的に、また継続的に学校と連絡をとらないと把握が難しく、学校との連絡や報告を義務づけることもできないので、評価自体が難しいのではないかと。</p>	<p>今後も退学者をなくす取組のひとつとして、スクールカウンセリングを継続して実施する。(4) については評価値3にとの意見が多数のため、評価を修正する。</p>
5 学生支援	<p>【神谷委員】 (11) の科目等履修生については卒業生や社会人の学び直しなので、もう少し力を入れてもいいのではないかと。学則では前期2科目、後期2科目の計4科目以内となっているが、もっと増やしてもいいのではないかと。1科目だけのために通うのは難しい方もいるかもしれない。科目等履修生をもっと広げるとこれを機会に学校のことを知ってもらい、入学するということもあるのではないかと。またWEBでの対応は可能ではないかと。もっと力をいれるつもりはあるかと。</p> <p>【谷 委員】 (6) について、高校の教諭から話を聞くと寮の整備を期待している学校もある。各学校にガイダンスで話をする際に、このようなことをしていると話していただけると、さらに生徒が選びやすくなると思うのでお願いしたい(10)の連携については、コロナ禍の中でも実施いただき、ありがとうございます。</p>	<p>昨年度、有識者会議等で社会人の学び直しの機会を提供していくことは非常に重要との意見をいただいている。昨年度、今年度と1名ずつ科目等履修生に来ていただいている。履修可能な科目数を増やすかどうかについては学内で検討する。科目等履修生は実習を受けたい方が多い。座学であればWEBでの対応もできるが、実習科目は難しい。今後は、座学についてはWEBでできるよう対応する。また、制度について業界や社会人の方々に向けて情報発信を強めていく。</p> <p>農業高校卒業後、さらに知識を深めたい、技術を身に付けたいと考える生徒の進学先のひとつとして、本校を選択いただけるよう、引き続き、農業高校と連携していく。</p>
6 教育環境	<p>【内山委員】 すべての項目において評価値4でよいのではないかと。</p> <p>【加藤委員】 十分整っていると感じるので、評価値4でよいのではないかと。環境整備はあまり先をみるとキリがない。この時点で適切であればよい。</p> <p>【谷 委員】 高校卒業後、さらに専門性を高めたい、知識を得たいという生徒が進学するため、施設整備の充実はさらなるものを望みたい。まだ整備をと考えられるのであれば、評価値3ではないかと思う。</p>	<p>自己評価において、ICT化が進んではいるが、現在導入しているパソコンのスペックが低く、ほかにも環境的にまだ改善すべき点があるとのことで、評価値3としている。環境整備としては温室のドライミストが整備途中であり、完了させる。学生の学習環境となるため、もう少し整備していく。</p> <p>(1)～(3)については評価値4、(4)は評価値3することで多数の委員の同意があったため、総合評価を修正する。</p>

評価項目	委員の意見	本校の認識・対応方針
7 学生の受け入れ募集	<p>【松尾委員】 コロナ禍で東京などへの進学が減ってきており、近隣への進学が増えてきている。6割の県内はチャンスと思っている。就職は7割が県内となっている。県内出身者は県内に就職する率が高いが、県外出身者はほとんどが県外に就職する。県内出身者が多いのはチャンスと思うが、学校としてはどう考えているのか。</p>	<p>県内の企業に就職していただくことで地域経済の活性化につながり、重要な人材となって、将来業界を引っ張っていくことができるよう、学校としてはそういう方向性にもっていきたいと考えている。しかし国際園芸アカデミーとして、全国に活躍する人材を送り出すということもある。コロナなどによる生活困窮世帯で奨学金を借りたり、授業料免除の学生も多く入ってきている。頂点を目指す学生と地元で活躍したいという学生がいるため、2つの柱でやっていく。</p>
	<p>【松尾委員】 学校の根幹となる基本方針に「岐阜県の花と緑の産業に寄与する学校」とある。そこは外さないよう、県内からの入学、県内への就職を増やしていただきたい。</p>	<p>学校と産業をうまく結びつけ、連携を深めていこうとコンソーシアムが立ち上がった。今後、コンソーシアムとも連携して取り組む。</p>
8 財務	特段意見無し	
9 法令等の遵守	<p>【内山委員】 (3) はすべきことをなされ、改善もされています。完全に改善できない部分が残ったとしても評価値は4でよいのではないかと。</p> <p>【加藤委員】 ほぼできているから評価値4でよい。</p>	<p>法令は守ってあたりまえなので、評価値4であるべきかもしれないが、(3)については有識者会議や運営計画の施策をこれから進めていく必要があり、これを着実に進めていくため、自己評価を3とした。</p> <p>(3) を評価値4とすることで委員の同意多数のため、(3) を評価値4とし、総合評価を修正する。</p>
10 社会貢献・地域貢献	<p>【前田委員】</p> <p>ボランティア活動する場がないということであるが、花フェスタ記念公園の中の実習フィールドの辺りに管理不足となっている部分がある。造園緑化協会と連携してボランティア活動できるとよい。講師となる技術者は30名ほどいるので、そこでボランティア活動されることを提案する。協会の方も協力できることはしていく。</p>	<p>業界と学校と地域の方が入るとよい。具体的なものとして進めていく。</p>
11 国際交流	<p>【神谷委員】</p> <p>(1) は戦略を持っているかという項目であるが、戦略となるとこれからどうするか中長期的な計画を立てないといけない。少しでもいいので運営計画に落とし込んでいかないと戦略とはいえない。</p>	<p>コロナ禍で国際的なことがなかなかできない。昨年度はフランスの造園学校から研修生を受け入れた。まだつながりを持っているので、コロナが収まれば交流していく。</p> <p>フランスとの交流もあったので、戦略として位置付けていく。運営計画を見直す際に盛り込んでいく。</p>

評価項目	委員の意見	本校の認識・対応方針
全体を通して	<p>【大橋委員】 県立農林系アカデミー・農大の運営向上検討委員会、国際園芸アカデミー有識者会議など、外部からの意見を伺いながら、改革と運営向上に努められ、ここ数年で大きく変わったと感じている。学長のスピード感をもってすれば、これらの成果が表れるのも早いのではないかと思う。今後は成果の外部への見える化を図っていただきたい。低い自己評価はアカデミーのもっと伸ばしていけるという改革意識の表れである。結果に満足しないで頑張っていく姿に今後も期待している。</p>	<p>外部からの意見を参考にしながら、引き続き、よりよい教育ができるよう改革に努める。</p>
	<p>【加藤委員】すばらしいけど、みんなが知らない。どんどん発信していかなければならない。時代が大きく動いているため、「国際園芸アカデミー」というこの名前で本当にいいのか考えていかなければいけない。</p>	<p>引き続き、現場に直結した教育を実践し、「社会性、職業意識を身につけた即戦力」となる人材育成に努め、花と緑の業界への周知を図る。</p>